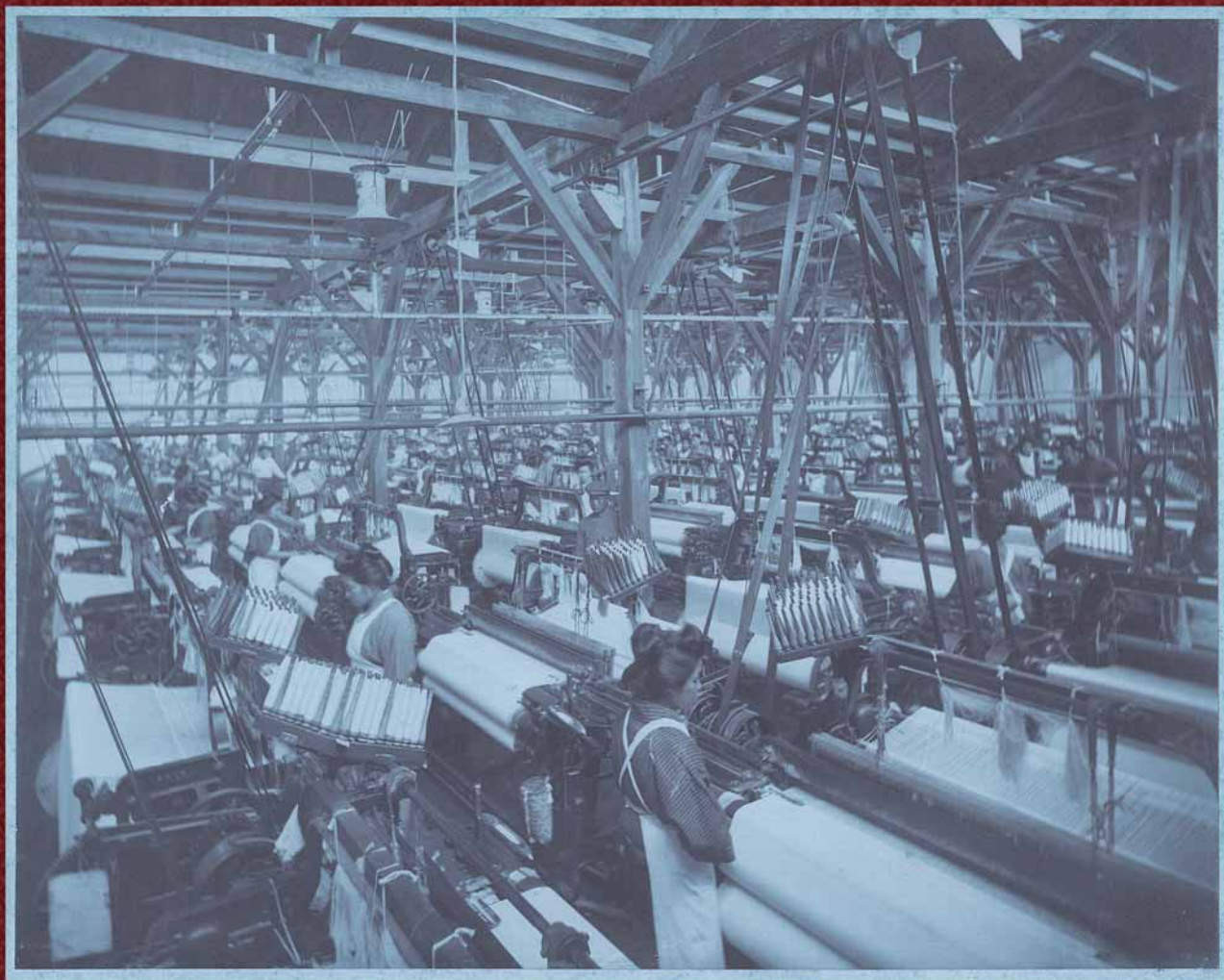


「研究と創造の精神」と「モノづくり」

Vol.56

赤れんがが便利



豊田自動織布工場100周年特別展

トヨタグループの源流 —この地から—

2011年

9

17

土

12

4

日

トヨタコレクション企画展

記念館アーカイブス

トピックス



トヨタテクノミュージアム

産業技術記念館

豊田自動織布工場100周年特別展

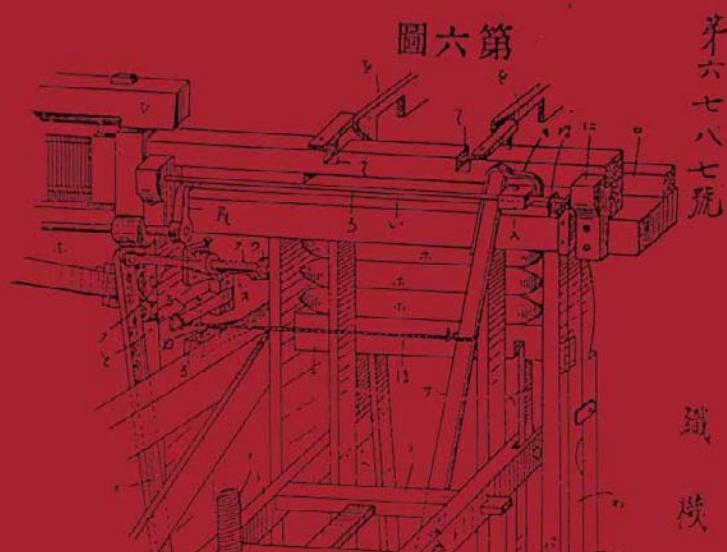
トヨタグループの源流

—この地から—

開催期間 9月17日(土)～12月4日(日)

会場 館内特設会場

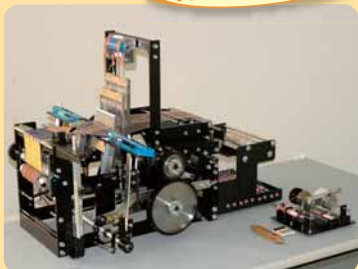
後援 愛知県教育委員会、名古屋市、
名古屋市教育委員会



「創造的なものは、完全なる営業的試験を行うにあらざれば、真価を世に問うべからず」——という強い信念を抱いていた豊田佐吉が、その実践のためにここ名古屋栄生の地を選んだのが今から100年前、1911(明治44)年のことでした。佐吉はここで世界最高性能の自動織機を完成させ、その志を受け継いだ長男の喜一郎は国産車を開発して自動車事業を起こしました。今回の特別展は、そんな先人達の幾多の困難や試練を乗り越えた不屈の精神、そして「研究と創造」と「モノづくり」にかけた情熱をあらためて知る貴重な機会になるはずです——。



体験コーナー

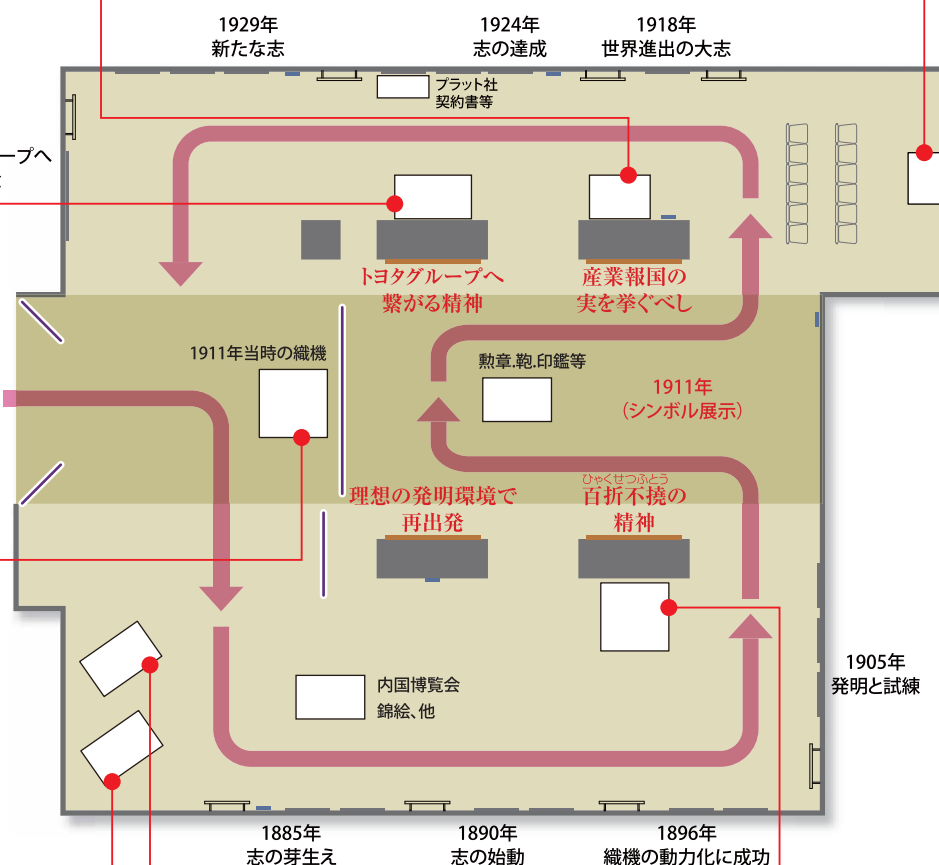


G型自動織機の機構解説

解説映像と実際の操作体験により、優れた仕組みが理解できます。

会場平面図

～2011年
現在のトヨタグループへ
つなぐ理念



A1型試作車模型

1935年に完成したA1型試作車の模型。



豊田式鉄製広幅動力織機(L式)

1911年当時、試験に使用された織機。



高機



豊田式木製人力織機

機織り比較体験

1800年頃から機織りに用いられてきた高機と、それより生産性を格段に向上できた豊田式木製人力織機との使い勝手を比較体験できます。



豊田式汽力織機

佐吉が発明を志し、当初からめざした動力織機。本年度、日本機械学会が認定する「機械遺産」に選ばれました。



人・豊田佐吉—情熱と創造の日々—



虹を架けた男たち～豊田喜一郎、夢への挑戦～



トヨタ生産方式の源流

映像ライブラリー

次の6作品を上映します。

1. 豊田佐吉 (4分)
2. 豊田喜一郎 (4分)
3. 人・豊田佐吉 —情熱と創造の日々— (15分)
4. 虹を架けた男たち～豊田喜一郎、夢への挑戦～ (16分)
5. トヨタ生産方式の源流 (15分)
6. 在来織機の改良 (3分)

江戸時代から遠州木綿の産地として知られた静岡県西部。
豊田佐吉は1867(慶応3)年、遠江国敷知郡吉津村山口(現在の静岡県湖西市)に生まれました。父の伊吉は農業のかたわら大工もこなし、周囲から信頼されていました。報徳思想(*)を生活信条にする父の影響を受けて、佐吉もまた国家社会への奉仕を志すようになります。

小学校を卒業後、父について大工の見習いになった佐吉は専売特許条例の公布を知ると、発明こそが自分の歩む道だと

特許条例、此処じゃ。よし是から何か一つ
お国の為になるものを考え出さねばならぬ。

(佐吉の言葉①1885年の専売特許条例公布を知る)

心に決めました。そして、糸紡ぎより難儀な機織りを機械化すべく、動力織機を発明の目標に定めます。佐吉は昼間の大工仕事を終え、夜半まで織機改良に没頭し、東京で第三回内国勧業博覧会(1890年)が開催された際には、機械館へ15日間連続で通い続けて、最新の機械の動きを目に焼き付けました。

※二宮尊徳が広めた「私利私欲を戒め、経済と道徳の融和を重んじる」考え方。



佐吉の生家

人力織機に続いて動力織機を発明

1890年～

1890(明治23)年、最初の発明となる「木製人力織機」(P2写真参照)が完成しました。動力織機の研究のために経済的自立が必要だった佐吉は上京して販売に努めましたが、織布の品質は評価されたものの織機はほとんど売れませんでした。そこで佐吉は、簡易ながら高能率の糸繰返機いとくりかえしきを発明・販売します。これが順調に売れて経済的基盤を確保した佐吉は、1896(明治29)年、念願の「豊田式汽力織機」(P2写真参照)を完成。これにより、均一で高品質な綿布を安価に大量生産するこ

いよいよ
愈々特許は取れたが、尚幾多の改良を要する。生きて居る以上、食わねばならぬ、衣ねばならぬ。研究考案に金にかかる

(佐吉の言葉②発明者としての苦悩)

とが初めて可能になりました。

1899(明治32)年、佐吉は三井物産が動力織機を製造販売するため設立した井桁商会の技師長に就任します。井桁商会は一時盛況をきわめました。その後の深刻な不況を受けて動力織機の注文は激減。佐吉が研究に専心しようにも到底その費用をまかなえず、発明と営利の両立に苦しんだ佐吉は井桁商会を去りました。

明けても暮れても織機の考案、試作、実験に没頭して、ようやく今度こそはと思われるほどの織機が出来上がった。

(佐吉の言葉③改良に改良を重ねた動力織機の完成)

営利優先の経営陣と対立

1905年～

1905(明治38)年には、鐘ヶ淵紡績の要請で、外国製織機と佐吉が開発した織機との性能比較試験が実施されました。しかしその結果は、英国製ブラット式普通織機に軍配が上がります。佐吉は失敗の原因が、織機の製作や試験を不慣れな他人に任せたためであったと判断します。そして「発明品は自ら製作に従事して十分に試験を重ねなければ完成しない」ことを貴重な教訓としました。

その後、佐吉は自働杼換装置や新しい動力織機、独創的な環状織機などを次々と発明していきます。工場が繁忙を極める

状況をみた周囲の人々は佐吉に個人経営から株式会社組織への改組を勧め、豊田式織機株式会社(現在の豊和工業株式会社)が1906(明治39)年に設立されました。その目的は財界人の資本拠出によって織機事業を大きく発展させるとともに、佐吉を発明に専念させることにありました。しかし、日露戦争の反動不況でやがて業績不振に陥ると、研究・開発を優先させたい佐吉と営利を目的とする経営陣とが激しく対立することになります。臨時取締役会の後、佐吉は会社を去ることになり、有形無形の資産とともに活動の基盤も失ってしまいました。

営業的試験を為し、その成績充分にあらざる間は、決して販売すべきものに非ず

(佐吉の言葉④モノづくりへの姿勢)

1910(明治43)年5月、佐吉は失意の中、アメリカへ旅立ちます。それは移住も視野にした旅でした。各地で織布工場を見学した佐吉は、立派な試験室には羨ましさを感じたものの、米国製織機に対しては、機構が複雑で回転数が低いうえに、たて糸の切断も多いなど、多くの弱点に気がきます。自分の織機が劣らないことを知った佐吉は自信を取り戻し、「こんなことならアメリカに移住するより、日本に帰ってもう一度自動織機の発明に懸けてみよう、世界一の織機を実現してみせる」と決意しました。

旅の途中では、世界的化学者として名声を博していた高峰譲吉博士(*)を訪問。博士は、「発明家たるものは、その発明が実用化されて社会的に有用な成果が得られるまでは決して発明品から離れてはならない、それが発明家の責任である」と、佐吉を大いに激励しました。

1911(明治44)年1月、欧米視察から帰国した佐吉はいよいよ「完全なる自動織機」の完成を目指す試験工場建設の準備に入り、慣れない金策に奔走します。そして同年10月、名古屋

市西区栄生町(産業技術記念館の現在地)に3,000坪の土地を取得。ここに、佐吉は彼の理想とする工場の礎を築くのです。

そして翌年、自動織機の発明完成の足場となる「豊田自動織布工場」を稼働させます。佐吉は家族で工場へ移り住むと、部下と寝食を共にしながら発明と工場経営に打ち込みました。その油まみれになって働く姿は従業員の心をとらえ、一丸の空気が漲った工場は経営も軌道に乗って、1918(大正7)年1月からは「豊田紡織株式会社」へと改組します。以後、事業の拡張に伴い徐々に関連会社が増え、今日のトヨタグループへと発展を遂げたのでした。

※高峰譲吉(1854-1922年)は消化薬「タカジアスターゼ」の発見創製やアドレナリンの結晶化で知られる世界的化学者。特許商標制度の確立に尽力した後、アメリカに永住して研究を続けた。



写真提供：金沢ふるさと偉人館

高峰譲吉博士

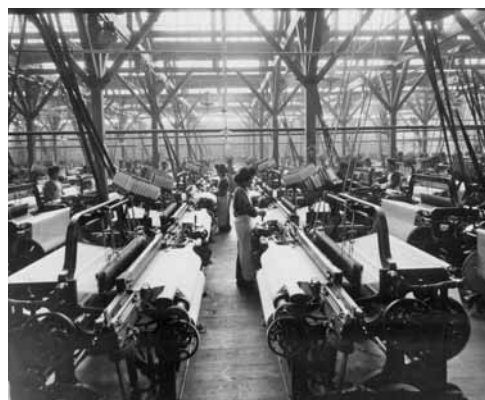


日本郵船歴史博物館所蔵

失意の中、因幡丸(いなばまる)でアメリカへ



アメリカの紡織工場



豊田自動織布工場

“研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし”

佐吉は報徳思想を背景に「自動織機の発明によって社会国家に貢献したい」という強い信念を抱き、生涯を織機の発明に捧げますが、その道のりは決して平坦ではありませんでした。豊田綱領の「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」の一節には、佐吉の情熱が凝縮されているといえるでしょう。佐吉は生涯に84件の特許(海外特許13件を含む)と、35件の実用新案を取得しましたが、ほとんどが織機およびその周辺技術に関するものでした。

「豊田綱領」は佐吉の考え方を遺訓としてまとめたもので、豊田利三郎、喜一郎を中心とした当時の豊田紡織などの経営陣により、五回目の命日にあたる1935年10月30日に制定されました。

豊田綱領

一、上下一致、至誠業務に服し
産業報国の実を挙げべし

一、研究と創造に心を致し常
に時流に先んずべし

一、華美を戒め質実剛健たる
べし

一、温情友愛の精神を発揮し
家庭的美風を作興すべし

一、神仏を尊崇し報恩感謝の
生活を為すべし

1924(大正13)年11月、佐吉が生涯をかけて発明に取り組んだ自動織機「無停止^{ひがえ}杼換式豊田自動織機(G型)」が完成しました。佐吉は愛知県刈谷町に新たに試験工場を建設して、約1年間をかけて自らの信念に基づく「完全なる営業的試験」を遂行します。その後1926(大正15)年11月17日、佐吉は自動織機製造を目的とする新会社「株式会社豊田自動織機製作所」の設立総会を豊田紡織株式会社本社(現・産業技術記念館)において開催しました。既に十二分に試験を重ねたG型自動織機の完成度は高く、発売と同時に世界最高の性能であると評され、大きな反響を呼ぶことになります。当時の代表的な

繊維機械メーカーであった英国プラット社は特許権の譲渡を申し入れ、渡英した佐吉の長男・喜一郎と1929(昭和4)年12月に契約(豊田・プラット協定)を締結。世界的メーカーが工業後進国側から特許権を買い求めた事実は、イギリス、アメリカをはじめとした各国から注目を集めました。

よ
予が今日迄の生涯は、随分波乱曲折あり
て悪戦苦闘。多くは失敗の歴史なりとす。

(佐吉の言葉⑤G型織機完成までの道程)



豊田紡織本社



G型自動織機

自動車事業への進出

1930年～

1930(昭和5)年10月、自動織機の発明に執念を燃やし続けた豊田佐吉は、63年の生涯を静かに閉じました。喜一郎は佐吉の夢でもあった自動車生産の事業化に向け、いよいよ動き出します。

喜一郎は二度にわたって欧米の自動車工業を視察する中で、既に大衆の足となりつつあった自動車の可能性を確信するようになっていました。自動車は1923(大正12)年の関東大震災の復興の足として活躍し、有用性は誰の目にも明らかでした。しかし、現実には国内販売において、技術面・生産量共

にアメリカが優位で日本勢は太刀打ちできませんでした。この現状を必ず変えてみせると、喜一郎は決意します。かつて紡績機械も外国製品に占められていたのを国産製品が駆逐したように、「自動車工業も必ず確立できる」と考えたのです。そして自ら試作や技術開発を主導し、1933(昭和8)年9月、豊田自動織機製作所内に自動車部を設置します。3年後の1936(昭和11)年には、「トヨタAA型乗用車」を発売。それは人々の期待に応える、トヨタ初の乗用車が産声をあげた瞬間でした。



豊田自動織機製作所 自動車部



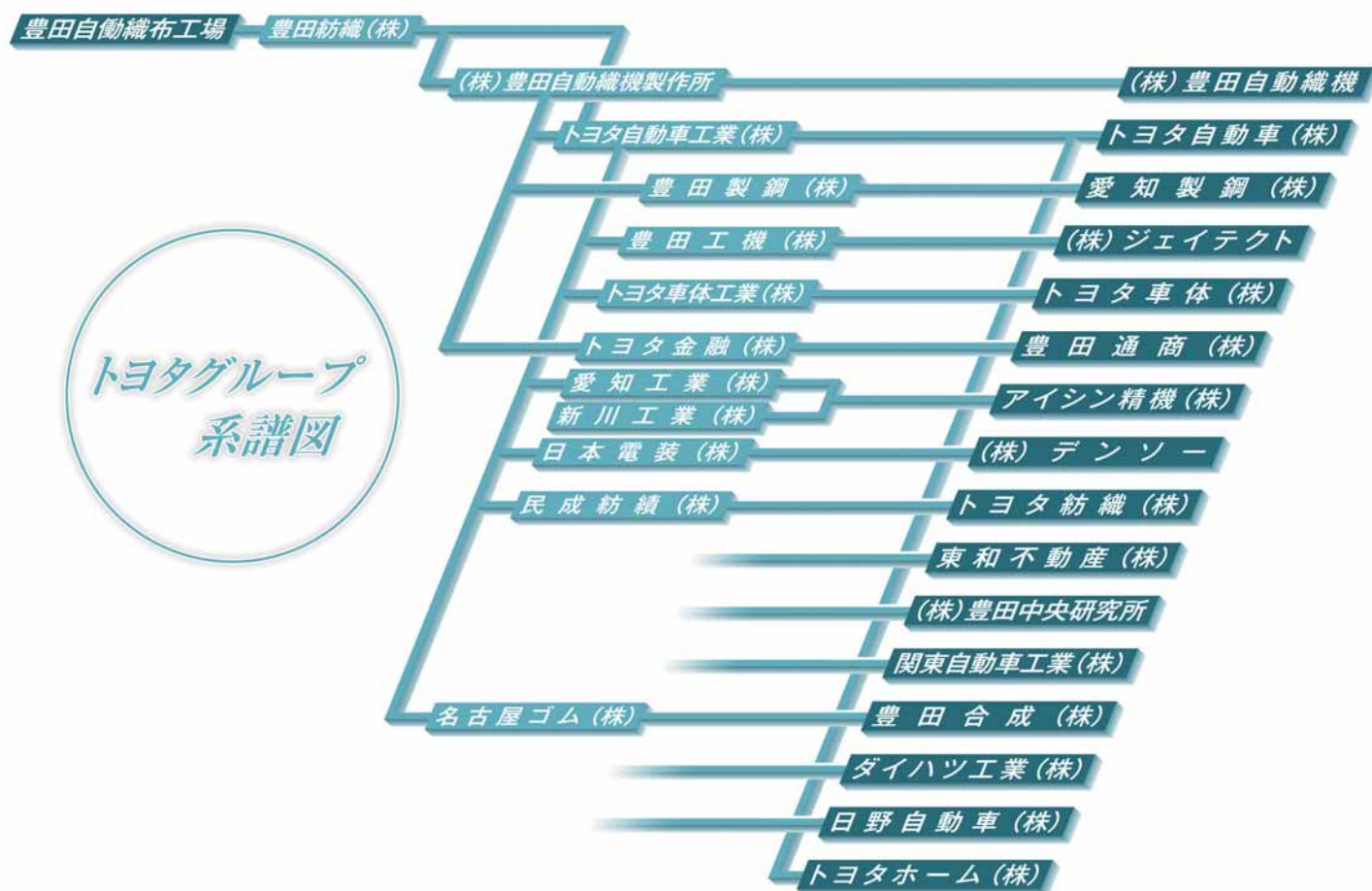
トヨタAA型乗用車

今日に至る発展は、100年前のこの地に端を発します。佐吉は自らの理想を追求め、新たな工場を建設しました。朝は誰よりも早く起床して研究室に入ると、昼間は織機を見て回り、夜は再び研究室に戻って遅くまで発明に没頭したと伝えられます。そんな佐吉の姿を見て、社員達も熱心に働き、佐吉自身も驚くほどの成果が生まれました。「研究と創造の精神」は、モノづくりに関わるすべての人が分かちあえる、熱い心でもあるのです。



A black and white portrait of a man with dark hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and a patterned tie. He is seated at a desk with his hands clasped in front of him. The background is dark and out of focus, showing parts of other people in suits.

豊田・プラット協定当時の喜一郎



大正100年記念

トヨタ博物館 企画展
「大正自動車ものがたり」

場 所:トヨタ博物館(愛知県長久手町 0561-63-5151)

詳細は
ホームページで



オトモ号(1925年) 国立科学博物館蔵

西洋の科学技術を 活かした江戸の技

和・魂・洋・才

開催
期間

7/16(土)～9/4(日)

料金

当館の入場券(常設展)が必要

明治時代に一等国を目指す当時の指導者たちは、日本人固有の精神をもって西欧の学問を取捨活用しようとしていました。

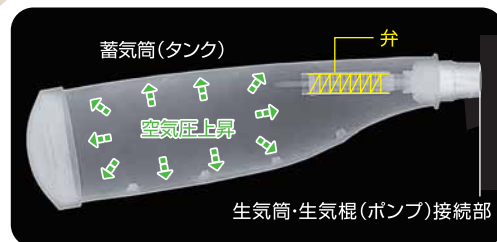
そこで「和魂漢才」をもじって生まれた言葉が「和魂洋才」。今回は空気銃や灯火具など、江戸時代に西洋の科学技術を取り入れつつ、日本人の伝統的な精神との巧みな調和をはかりながら製作された資料を中心にをご紹介します。

江戸時代後期の空気銃、灯火具など(19点)

■気砲(空気銃)

国友藤兵衛一貫斎 作 / 江戸時代後期(1819年)

国友藤兵衛一貫斎はオランダ製の空気銃の修理を機に、日本で始めて模作に成功し、オリジナルをしのぐ威力を発揮しました。金箔が施され、工芸品としても見事。また空気の圧縮とその重さなどに関する実験も行いました。



X線写真撮影：東京文化財研究所 三浦定俊氏

銃床の中は空洞で密閉構造の気室になっており、圧縮空気が蓄えられている。弁を開くと空気圧により鉛弾が発射され、連射も可能。

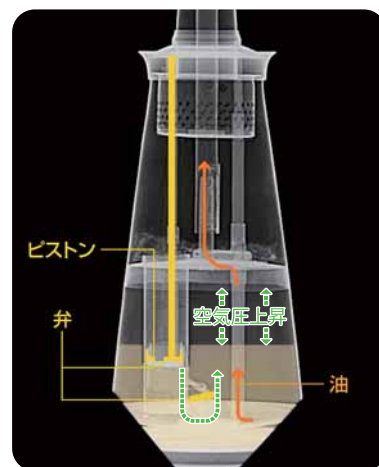


ネジ式のため、銃身はポンプに差し替えが可能。

■無尽灯(自動給油ランプ)

田中久重系統 / 江戸時代後期

気砲の原理を利用した灯火具で、常に灯りを絶やさぬよう圧縮空気でおを灯芯に押し上げます。



X線写真撮影：東京文化財研究所 三浦定俊氏

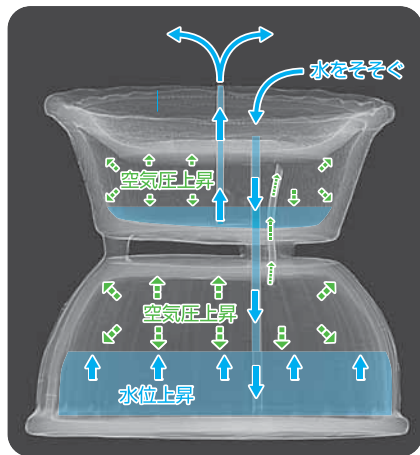
パイプを持ち、上下に振るとピストンにより下部の油槽に空気が押し込まれる。蓄えられた圧縮空気の圧力で、油が灯心まで押し上げられる。また、灯心部のツマミを回せば明るさの調節も可能。

おらんだちやうす

■和蘭茶臼

司馬江漢 作 / 寛政6年(1794年)

コーヒーミルと同じくみですが、生薬を粉末にする薬研<やげん>の代わりや、絵の具用の鉱石を砕くのに用いられたとされています。



X線写真撮影：東京文化財研究所 三浦定俊氏

上皿に注いだ水が下部タンクに落ちて水位が上昇すると、下部タンクの空気圧が上昇する。下部タンクと上部タンクの空気部分はパイプでつながっているので上部タンクの空気圧も上昇し、水がノズルから噴出する。上部タンクの水がなくなると、噴出は止まる。

■源内焼噴水器 (盃洗)

江戸時代後期

水からくりは当時のからくり芝居で人気があり、いろいろな水からくりがサイフォンやポンプを利用して作られました。空気圧と水圧を利用した源内焼（三彩陶器製）噴水器は、平賀源内が考案・製作させたものと考えられ、酒席での盃洗などに用いられました。



■エレキテル (電気治療器)

佐久間象山タイプ / 幕末

初めは治療器としてよりも、見世物として庶民などの好奇の対象でしたが、佐久間象山らが製作したものは、電池式で確実に治療が行えました。

江戸時代後期のからくり人形など (6点)



■段返り人形

江戸時代後期

とんぼ返りをしながら、階段を降りていくからくり人形。人形の内部に水銀が入っていて、重心移動でバランスを変化させながら一段ずつ階段を降りていきます。



■弓曳童子

田中久重 作 / 幕末

矢台の4本の矢を次々に弓につがえ、的に向かって射ります。動力に真鍮製のゼンマイを使い、人形の動きを7枚のカムに連動する糸によって制御しています。

主に明治・大正時代の計測器、生活道具など (28点)

- 気圧計 ■寒暖計 ■うちわ扇風機 ■手回し扇風機 ■トースター
- 鉱石ラジオ ■デルビル卓上電話機 ■モールス電信機 ■開化皿 他

からくり実演

内 容：からくり噴水器、弓曳人形など近年の作品による実演
(状況によって作品を変更する場合があります)

日 時：期間中の土・日・祝日 (11:10、13:30、15:50 各20分程度)



記念館アーカイブス

当館のみどころは繊維機械館、自動車館の他にも盛りだくさん。
ここでは館内でご覧いただける興味深く、貴重な資料のいくつかをご紹介します。

図書室 南入口脇2F

繊維・織物関係をはじめ、科学、技術、産業、自動車、ファッションなどの蔵書が約7万冊!

産業技術記念館図書室ホームページ(WEB上から蔵書検索が可能です) <http://www.tcmit.org/outline/library.html>



昭和以前の情報も掲載。

別冊1億人の昭和史 昭和自動車史 日本人とクルマの100年 (毎日新聞社 1979年)

「日本の国土を自動車が行きはじめから約100年の歳月がたった。この間をふり返ってみるとまさに動乱に次ぐ動乱の歴史であった」という書き出しでこの本は始まります。関東大震災や太平洋戦争を経て、自動車はその重要性が広く認められ、近年のクルマ社会が到来しました。そして今、新たなクルマのあり方がさまざまに模索されています。

このような時にこそ百年前の日本の様子を思い、ど

のように先駆者たちは海外の技術を取り込み磨いていったのか、さらにどうしてクルマが「庶民の憧れ」から「あつて当然」のものになったのかを振り返るのも興味深い。そして広告ページを飾るのは「技術の日産」の「静かなサニー」や、「やすらぎ」をキーワードにしたトヨタのクラウン。バブル期以前の当時に何が求められていたのかを想像しつつ、前世紀の私たちの生活とクルマとの関係に思いを馳せてみるのはいかがでしょう。



当時のエピソードも興味深い。



コスモスポーツやパピリカなどが懐かしい。



広告から当時の世相が読み取れる。

当館運営に関わるトヨタグループ16社の社員の方々に限り、蔵書(一部のDVD、ビデオを含む)の貸し出しが可能になりました。社員証をご提示のうえ、図書室カウンターでお尋ねください。

ビデオライブラリー エントランスロビー内 戦前から現在に至るまでの歴史的な記録映像やオリジナル映像などが約300点!

モノづくりのここを… 産業技術記念館「建設記録」 7分 カラー

今から100年前、トヨタグループの創始者、豊田佐吉は織機の研究開発のために試験工場を設立しました。その土地と建物を活用して誕生したのが、産業技術記念館です。開館を迎えた1994年6月11日はトヨタ自動車の創業者、豊田喜一郎の生誕100周年記念日。この日に開館するため、設立構想を1987年に始め、1992年9月に起工し、完成までに1年9ヵ月の歳月をかけました。

トヨタグループの中に連綿と受け継がれてきた「研究と創造の精

神」と「モノづくり」に対する情熱を、次代を担う若い世代を始め、広く社会の皆様にお伝えするために設立された産業技術記念館。トヨタグループ発祥の地での、そして豊田喜一郎生誕100周年記念日の開館自体に、特別で大切な意味があるのです。こうした背景を知ったうえでご覧いただくと、グループの一大プロジェクトとしての存在意義を感じていただけたと思います。



産業遺産として保存しつつ皆様にご利用いただくため、産業技術記念館として生まれ変わる。



繊維機械館に紡機が運び込まれる。



自動車館にも大型機械が設置される。

Topics トピックス

開館記念特別イベントを開催しました。

当館の開館記念日6月11日(土)とその翌日12日(日)に、開館記念特別イベント「ノリノリウィークエンド」を開催しました。毎年恒例の「同乗試乗会」は悪天候のため初日のみ中

止しましたが、「Winglet展示&デモ&体験試乗会」や「近代化産業遺産スタンプラリー」などの新たなプログラムも加わり、随所に人だかりができ賑わっていました。



初代クラウンと初代セリカの同乗試乗会



近代化産業遺産スタンプラリー



Winglet展示&デモ&体験試乗会



テクノライブショー自動車館にて好評開催中!

この春からテクノライブショーは創造工房から自動車館に会場を移し、4つのテーマの中から日替わりで開催しています。その日の

テーマは来場してからのお楽しみ。織物や自動車にちなんだテーマも加えていきますので、お子さまとご一緒に、ぜひご覧ください。



エンジン



テーマ エンジン、ブレーキ、衝突安全、糸つむぎ
実施日 土・日・祝日
開始時刻 14:00～ 15:00～
所要時間 15分程度

入館者300万人を達成!

当館は開館以来、多くの方々にご来場いただき、5月4日(水)には、300万人目のお客様をお迎えしました。300万人目のお客様には、当館専務理事の加藤武彦より認定証、館長の布施直人より花束と記念品が贈られました。



記念すべき300万人目の入館者は、石川県からお越しになった長谷川さんご一家。小学校1年生の航太くんは、当館のテクノランドがお目当て、「いっぱい遊びたい!」と笑顔で話してくれました。

エリアガイド実施中!

当館では繊維機械館、自動車館を総合的にご案内する「ガイドツアー」に加えて、さらにテーマを絞り、より短時間でのご案内する「エリアガイド」を7月から試験的に実施しています。「ガイドツアー」とは異なる新鮮な驚きに、どうぞご期待ください。



テーマ 糸づくり技術、機織り技術、トヨタデザイン、トランスミッションなど、実施日により異なりますが、予め当館ウェブサイトにてご確認ください。

実施日 第2土・日(都合により中止する場合があります)

開始時刻 繊維機械館 10:00～ 13:45～
自動車館 11:15～ 14:45～

所要時間 15～30分

対象 個人・少人数のお客様

定員 15名

お申し込み 電話・FAXによる受け付けをしておりませんので、当日の開始時刻までに展示場入口にてテーマ毎にお申し込みください。入場料のみでご参加いただけます

インフォメーション

都合により、変更させていただく場合がございます。
詳しくは産業技術記念館までお問い合わせください。

週末ワークショップ

次代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとなる各種プログラムを用意しました。是非ご参加ください！

8/24(水)から9/7(水)までの期間に下記ホームページからお申込みください。

参加費として、従来の入場料に加えて1回あたり500円をいただくことになりました。(お問合せ先: 052-551-6003)

<http://www.tcmit.org/workshop/>



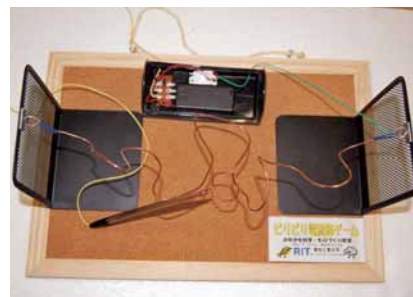
10 1 ± オリジナル手織り布でマイ・エコバッグ

ポケットの部分をミニ手織り機で織り、エコバッグに仕上げます。好みの糸を選んで、オリジナル・エコバッグをつくろう。



10 8 ± 科学のびっくり箱! なぜなにレクチャー もけいひこうき

簡単な実験で飛行原理を学び、模型飛行機をつくります。翼の角度や飛ばし方など工夫して滞空時間コンテストに挑戦しよう!



10 15 ± ソーラー飛行機をつくろう

太陽光エネルギーでモーターを回すソーラー飛行機(回転飛行塔)をつくります。天気が良ければ屋外での試験飛行も行ないます。



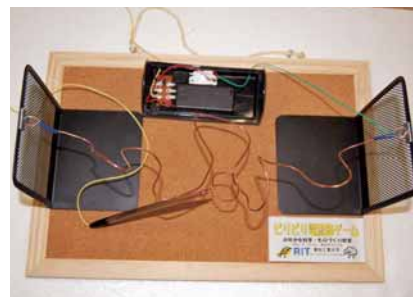
10 22 ± 鉄の教室 マイ磁石をつくろう

フェライトは酸化鉄などからできる物質で、不思議な性質を持っています。どうすれば磁石に変化するのか? 好みの色と形でマイ磁石をつくってみよう!



10 29 ± どきどき電流棒ゲームをつくろう

曲がりくねった道に触れないように電極棒を動かそう! 失敗すればブザーが鳴り続けます。サイリスタを使った電子回路の仕組みが学べます。



おすすめ商品

オリジナルグッズやモノづくりの楽しさを感じられるアイテムがいっぱい!



ブルバックミニカー(AA型セダン)

館内に展示してあるトヨタ初の乗用車「AA型」のミニカー。後ろに引っ張ると軽快に走ります。1,050円(税込)



スパナフォーク、スパナスプーン

ミュージアムショップでも大人気のオリジナルグッズ。スパナとしては使えませんが…。大735円(税込)、小420円(税込)



タベストリー

館内に展示している「蒸気機関」を繊維機械館のジャカードで織り上げたオリジナル商品。500円(税込)



営業時間 11:00~17:00
(16:30 ラストオーダー)

17:00以降は貸切パーティー開催の場合のみご利用いただけます。(要予約)

ランチタイム お手頃なランチをお楽しみいただけます



女性に喜ばれる健康食材を贅沢に使用したシェフおすすめの「ヘルシーランチ」。話題の「石窯パン」を味わう事ができ、テイクアウトもOK。
¥1,200(税込)
(団体予約も受付致します)

貸切パーティー 気の合う仲間とご自由にお使いいただけます



館内セミナー後の懇親会、歓送迎会、忘年会、結婚披露宴、二次会など、さまざまな催しにご利用いただけます。

立食パーティー

¥3,150~(100名様まで)

着席パーティー

¥5,250~(60名様まで)

開館時間・休館日

◆開館時間 9:30~17:00(入場受付は16:30まで)

◆休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

入場料

◆大人(大学生含む) 500円 ◆中高生 300円 ◆小学生 200円

* 団体割引 30名以上は1割引、100名以上は2割引

* 学校行事での来館 大学生・中高生は半額、小学生は無料(引率の先生は無料)

* 障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名も無料

* 65歳以上の方は無料(年齢を証明できるものをご提示ください)

Annual Pass[年間パス]

◆大人(大学生含む) 1,200円

◆中高生 700円

◆小学生 500円

◆ファミリー 2,500円



トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館

〒451-0051 名古屋市西区則武新町4丁目1番35号

TEL 052-551-6115 FAX 052-551-6199

<http://www.tcmit.org/>

メールマガジン会員募集中

お申し込みはホームページから

交通

◆名鉄「栄生駅」下車、徒歩3分 ◆地下鉄「亀島駅」下

車、徒歩10分 ◆市バス/名古屋駅11番のりば「名

古屋駅行(循環)」「産業技術記念館」下車、徒歩3分

◆なごや観光ルートバス「メーグル」/名古屋駅8番の

りば「産業技術記念館」(敷地内)下車すぐ

◆無料駐車場: 210台

